

【再発防止対策】

① コンプライアンス研修の実施

安全と信頼の根幹に関わるアルコール検査における不正は、個人の資質の問題と捉えるのではなく、経営トップから従業員1人ひとりにコンプライアンス意識が徹底され浸透していなかった事が原因のひとつと捉え、次の通りコンプライアンス教育の強化に取り組む事といたします。

◆コンプライアンス教育の方針

全役員従業員1人ひとりにコンプライアンス意識が徹底され、ルールを遵守できるよう、教育の強化徹底に取り組みます。

◆コンプライアンス教育強化の具体策

(1) バス部門乗務員対象のコンプライアンス研修の実施

自動車部各営業所の全乗務員を対象に、平成28年2月と9月に1回2～3時間程度のコンプライアンス研修を全員に実施し、飲酒ルールの確認と徹底をいたします。また、以降、毎年1回の乗務員を対象とした研修を継続して実施いたします。

(2) 伊予鉄グループ コンプライアンス研修会の実施

今回発生しましたバス部門での不正事案を教訓として、毎年11月に伊予鉄グループの全役員従業員に対し、外部講師を招いた講演型研修会を実施し、コンプライアンス意識の高揚と更なる浸透を図ります。

② モバイルアルコール検査方法の見直し

従来は正面からの写真と検査結果のみ送信しておりましたが、同様の不正行為(検知器と吹き込み口の間にも他の機器を差し込む)が行えないよう、横方向からの写真と検査結果を送信させ、2方向からのチェックを行うこととします。

また、吹き込みストローには直接手を触れないなど、適切なアルコール検査方法を示した作業マニュアルを策定し、全乗務員に周知いたしました。

③ アルコール検査の複数回実施

宿泊先での到着時のアルコール検査以外に、営業所の運行管理者が必要であると判断した場合、時間を空けて複数回の検査結果を送信させます。

④ 家族への手紙の送信

乗務員のご家族に対して「飲酒についてご家族の皆様へ再度のお願い」を送付し、ご家族に対しても今回発生した事態の重大性を認識していただき、日頃からの飲酒習慣管理にご協力をいただくこととします。

⑤ その他

今回の事態を受け、乗務員 237 名全員に対して面接調査を行った結果、今回の2名以外にアルコール検知についての違法行為の事実は認められませんでした。

以上